



術前化学放射線療法を受けた進行子宮頸癌患者の抗酸化状態

KEYWORDS// 子宮頸癌, 化学放射線療法,
抗酸化状態

子宮頸癌はインディアン女性において最も頻度の高い腫瘍である。著者らは進行子宮頸癌患者における循環過酸化脂質, 抗酸化物質および防御酵素活性の変化を評価するとともに, 化学放射線療法前後のレベルの変化をモニターした。検討は進行子宮頸癌患者 60 人 (FIGO III a-IV b) および既往歴のない健康者 60 人を対象として行った。血液試料は治療開始前, 化学療法第 2 コース完了 2 週間後および放射線療法完了 2 週間後に採取した。対照者からは 1 度だけ採血した。治療前の腫瘍患者では, 対照群に比べ血漿過酸化脂質濃度は増加していたが, 還元グルタチオン (GSH), グルタチオンペルオキシダーゼ (GPx), スーパーオキシドジス

ムターゼ (SOD), グルタチオン-S-トランスフェラーゼ (GST) およびカタラーゼ (CAT) は減少していた。化学療法後には, 過酸化脂質濃度は有意に減少し, GSH, GPx, SOD, GST, CAT は軽い増加を示した。化学放射線療法後には, これらの物質の血液中レベルは正常あるいは正常近くまで戻った。これらの物質の正常化は術前化学放射線療法の有効性についての情報を与えるものと考えられる。

(Sharma A, Rajappa M, Saxena A : Antioxidant status in advanced cervical cancer patients undergoing neoadjuvant chemoradiation. Br J Biomed Sci 64 : 23-27, 2007)

(埼玉県立大学短期大学部 鈴木優治)